

全国の2016年憲法集会！ 共同推進、参院選野党勝利へ

5月3日、東京で開催された「明日を決めるのは私たち 平和といのちと人権を！5・3憲法集会」を始め、全国各地で「憲法集会」が開催されました。今号で東日本の各地のとくみを紹介します。

北海道 旭川では6000人が「戦争法」廃止を求め総がかり行動

旭川市では「『戦争法』廃止を求める総がかり行動」が6000人の参加で行われ、集会後のデモにも1000人が参加しました。三つの9条の会と若者グループA.F.M.Aが主催し、平和フォーラム、連合旭川、旭川労連などが賛同し、開催されました。A.F.M.Aの櫻田晶子さんは「憲法を守ってきた先輩方と力を合わせていけることが本当にうれしい」と述べました。

函館市では「憲法記念日道南の集い」が開催され、200人が参加。名古屋学院大学の飯島滋明准教授が講演。安倍政権が目指す改憲が①単なる「お試し改憲」ではなく「海外で戦争できる国づくり」の一環、②戦争遂行のために市民には戦争への法的な協力義務が課され、反政府的言動に対しては弾圧の可能性がある」と指摘。そして、今夏の参院選で「憲法改正に必要な3分の2以上の議席を自公に渡さないために頑張ろう」と呼びかけました。

その他、士別市では士別9条の会が集会を開催し、高校生ら54人が参加。また、札幌市では「ビー・アンビシャス9条の会・北海道」が学習会を開催し、90人が参加。さらに、釧路市では沖縄県辺野古テント村村長・安次富浩氏を招き、集会を開催しました。

青森 県9条の会など12団体で「戦争法廃止！憲法改悪反対！青森集会」

県9条の会、日本共産党、社民党など12団体の共催で「戦争法廃止！憲法改悪反対！青森集会」を開催し、370人が参加しました。県9条の会の金澤茂共同代表をはじめ各団体の代表11人がリレートークし、「憲法改悪を狙う安倍自公政権を倒すため、私たちがしっかり腕・肩を組み一つにまとうろう」「世界に誇れる平和憲法を守るため力を合わせよう」等と訴えました。参院選で野党統一候補となった田名部匡代氏も駆けつけ、「民主主義、平和主義、立憲主義を何が何でも守り抜く」と決意表明しました。

また、八戸市、弘前市、十和田市など各地で集会が開かれ、戦争法廃止、憲法改悪阻止の声をあげました。

岩手 稲正樹氏、緊急事態法条項の危険な内容を批判！

盛岡市では、憲法記念日の集いが会場満席の141人の参加で、岩手憲法会議、いわて労連、県革新懇など6団体の主催で開催されました。憲法会議の沼田稔代表幹事は、参院選での野党共闘が全国で進むなか、「私たちもどう運動すればいいか、学んで考えて行こう」と訴えました。

講演では国際基督教大学元教員稲正樹氏は、憲法を身につけた主権者・国民として参院選で安倍政権に審判を下そうと強調。大震災での対応のまずさを理由に、自民党の改憲案は緊急事態条項を盛り込んでいるが、国民の基本的な人権を大幅に制限する危険な内容だと批判しました。

宮城 新緑の杜の都で900人が声を上げる

宮城県では「憲法を活かす県民集会」が仙台国際センターで開催され、900人が参加しました。集会は「みやぎ割烹着〜ず」の歌とダンスで始まり、主催者を代表して勅使河原安夫弁護士が「憲法を守れと声を高らかに唱え、為政者に憲法を守らせなければならない」と訴えました。

集会ではアフガニスタンで人道支援をするペンシャール会事務局長の福元満治氏が講演し、反テロ戦争がテロを生み出していると指摘し、「必要なのは住民が生活できる環境をつくること」と強調しました。

秋田 600人が参加。「歴史的な運動を大同団結して」と呼びかけ

秋田県では「第38回平和憲法をまもる秋田県民集会」（主催は秋田憲法会議）が秋田市内で開催され、600人が参加しました。参院選挙野党統一候補の松浦大悟氏も挨拶。センター代表の虻川高範弁護士が「秋田でも野党統一候補が実現した。選挙で安倍政権を倒し、戦争法廃止と立憲主義を回復する党派・世代を超えた平和と暮らしを守る歴史的な運動を大同団結してつくっていこう」と呼びかけました。

また、笑工房の小林康二氏が漫談で「これがアベさんの本音だ」を公演し、「国民の幸せとはアベこべ、毒入りのあべ川餅。決して口にはしてはいけない」とユーモアを交え、批判しました。



山形 直木賞・高橋義夫氏「戦争に進んだ時代の『空気』を感じる」と指摘

山形市では「明日を決めるのは私たち 平和といのちと人権を 5・3 憲法講演会」が開かれ、350人が参加しました。主催は「戦争法廃止を求めるやまがた県民の会」（共同代表＝小口裕之平和センター議長、高木紘一県九条連絡会会長）。高木共同代表があいさつ。直木賞作家の高橋義夫氏と戦場ジャーナリストの志葉玲氏が講演しました。高橋氏は、自民党が狙う緊急事態条項は秘密保護法、戦争法に続き憲法を無力化するものだと指摘し、「戦争に進んでいった時代の『空気』を感じる。9条を変えてはならない」と話されました。また、参院選挙の統一候補の舟山やすえ氏も参加し、立憲主義を取り戻す決意を語りました。

福島 戦争法廃止の署名、県内で17万人に到達!

「第37回憲法を考えるつどい」が福島市で開催され、約200人が参加しました。県憲法共同センターの大友仁事務局長が、戦争法廃止を求める200万署名が4月25日時点で県内16万5725人、その後も増えて3日までに17万人となったと報告するとともに、「集会を、立憲主義を取り戻す決意の機会にしよう」と訴えました。

作家の雨宮処凛氏と関根未希弁護士が対談。雨宮氏は安倍首相のもとでの集団的自衛権の閣議決定、戦争法強行、同法廃止を求めるたたかいの高揚に言及し、「こんなに憲法を考え、論議したことはない。市民的成熟の道だ」と話しました。

群馬 会場いっぱいの1900人超の市民が結集

高崎市の群馬音楽センターで憲法記念日集会が開かれ、会場いっぱいの1900人を超える市民が詰めかけました。主催者あいさつで実行委員会の小林勝弁護士が「日本国憲法を守り育てよう」と訴えました。コメディアン松元ヒロ氏が安倍政権を痛烈に批判する漫談で会場をわかせ、東京大学の小森陽一氏が講演しました。初めて参加した1歳半の子どもを持つ男性は「平和ボケのままです。憲法を変えて欲しくないと思いましたが、国民を無視して無理やり動いている今の政権は怖い」と語っていました。

茨城 水戸市で「2016 憲法フェスティバル～主権者はわたしだ!」を盛大に開催

茨城では「2016 憲法フェスティバル～主権者はわたしだ!」が3日、水戸市の公園で盛大に開催され、「安倍内閣を退陣させ、憲法を守り、平和な社会の実現をめざして全力でたたかう」とのアピールを採択しました。

主催者あいさつした実行委員会の田村武夫代表は「参院選で、改憲反対勢力の勝利を」と訴え。また、元美浦村長の市川紀行さんも「安倍政権による『戦前の亡霊』をたたきつぶし、憲法9条を守るために頑張ろう」と訴えました。

会場内の各テント内では県内各地の「9条の会」が運動の経験の交流、さらに原発やTPP、冤罪事件などのテーマごとに意見交換・交流し、問題点を浮き彫りにしました。

長野 ママの会や若者らが善光寺参道に沿って「憲法守れ」とアピール

長野市では3日、「安保法制廃止、立憲主義を取り戻せ!だまっていられない長野集会」が行われ、連休でにぎわう善光寺参道に沿って、「憲法を守れ」「野党は共闘」とサンウンドモでアピールが行われました。それに若者グループがこぶしを上げて共感を示すなど、注目を浴びました。

集会では「安倍さんは本当にひどい。『ルールを守らせる』ために選挙で頑張る」(信州大学生)、「終戦の混乱時、外地でなんとか生きのびた。二度と戦争はダメ」(83歳女性)等のスピーチが続きました。主催は、安保関連法に反対するママの会信州、僕らが主催者って知らなくて委員会、信州レッドアクション、憲法かえるのやだネット長野。

6月5日(日) 14時～15時30分、国会・霞が関一帯、全国に呼びかけ「決めるのは私たち—6・5 全国総がかり大行動」

この間、総がかり行動実行委員会など29団体がよびかけた「戦争法の廃止を求める2000万人統一署名」は昨年末から4月末までの短期間に1200万人を超えて結集され、6月末までに目標を達成しようという取り組みが強められています。こうしたなか、市民の共同をさらに強め、野党を後押しして、戦争法廃止、明文改憲阻止、安倍政権退陣を実現するために、参議院選挙にむけた決起のとりくみとなるのがこの「6・5 全国総がかり大行動」です。

呼びかけは戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会と安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合、主催は同大行動実行委員会です。

東京では国会とその周辺で取り組みますが、14時30分には全国によびかけて、「いっせいパフォーマンス」も予定されています。昨年8月30日の「国会周辺、全国大行動」を大きく上回る取り組みにして、参院選勝利にむけ総決起、大デモンストレーションを成功させましょう。

チラシ現物は17日には出来上がる予定です。必要な方、団体はご連絡ください。チラシの版下(PDF)は順次配信します。(憲法会議 事務局)